

人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	吉武 由彩
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を単位修得退学。日本学術振興会特別研究員(DC)、下関市立大学経済学部特任教員(地域貢献担当)等を経て、2017年に本学着任。主な研究分野は、福祉社会学、地域社会学。地域や親族集団の弱体化など、これまで人々の生活を支えていた対面的な連帯が弱まるなか、非対面的な連帯に着目し実証研究に取り組んでいる。具体的には、非対面のボランティア的行為の一例として献血を取り上げ、見知らぬ他者への贈与の実態を分析している。加えて、農山村における高齢者の社会参加活動、生きがい、社会関係や地域意識等に関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・吉武由彩, 2017, 「過疎地域における住民主体の地域福祉活動の展開とその可能性——下関市豊北町の事例から」難波利光編『地域の持続可能性——下関からの発信』学文社, 251-265.
- ・松本貴文・吉武由彩, 2017, 「大学による地域貢献の現状と課題——下関市立大学附属地域共創センターの事例から」難波利光編『地域の持続可能性——下関からの発信』学文社, 225-234.
- ・吉武由彩, 2019, 「地域生活構造への接近(2)——高齢者の生きがい調査から」山本努編『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社, 149-175.
- ・吉武由彩, 2019, 「地域活動、地域組織への接近——地域福祉の展開、高齢者の見守り活動と社会福祉協議会」山本努編『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社, 177-203.
- ・吉武由彩, 2020, 「どうすれば献血者は増えるのか」三隅一人・高野和良編『ジレンマの社会学』ミネルヴァ書房, 17-30.

<論文>

- ・吉武由彩, 2017, 「多回数献血の規定要因分析」『下関市立大学論集』60(3): 167-184.
- ・吉武由彩, 2018, 「献血者とは誰か?——データからひも解くボランティア精神の現在と献血推進」『血液事業』41(1): 149-151.
- ・吉武由彩, 2018, 「R.ティトマスの『贈与関係論』再考——社会的連帯の形成に向けて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 1-18.
- ・吉武由彩, 2018, 「社会的連帯をめぐる現状分析——社会関係とボランティア的行為の状況」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(1): 53-63.
- ・吉武由彩, 2019, 「献血を重ねることと生きづらさ——聞き取り調査の結果から見る献血動機の一断面」『現代の社会病理』34: 57-73.
- ・吉武由彩, 2019, 「献血行為に関する計量的分析——2012年調査のデータを用いた分析から」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(1): 37-49.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・吉武由彩, 2019, 「離島における子育てと家族・近隣関係」高野和良編『「伊仙町生活構造分析調査」報告書 1 (2016~18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書)』, 44-55.
- ・坂本毅啓・稲月正・西田心平・勅使河原航・吉武由彩, 2020, 『2019年度赤い羽根福祉基金助成事業 高校中退防止と困窮孤立する子供への居住就労生活の総合支援事業中間報告書』特定非営利活動法人抱樸(第3章3節1項、第3章3節3項を担当、p22-26、p34-37)。

<学会発表>

・吉武由彩, 「献血者とは誰か? ——データからひも解くボランティア精神の現在と献血推進」『第41回日本血液事業学会』シンポジウム6「血液事業を支える献血者～若年層への献血構造改革～」, 福岡市(福岡国際会議場), 2017年11月2日(招待講演・シンポジウム).

③過去の主要業績

・吉武由彩, 2013, 「社会学的想像力の現代的意義と可能性——『他者性想像力』に着目して」日本社会分析学会『社会分析』40: 125-142.
・吉武由彩, 2014, 「非対面のボランティア的行為と想像力の問題——多回数献血者への聞き取り調査の結果から」西日本社会学会『西日本社会学会年報』12: 21-35.
・吉武由彩, 2016, 「福祉——高齢化と支え合う社会」山本努編『新版 現代の社会学的解説——イントロダクション社会学』学文社, 115-136.

3. 外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究B)「何が『被害者』の連帯を可能にするのか——『薬害HIV』問題の日英比較」、2017～2019年度、研究分担者(研究代表者: 本郷正武・桃山学院大学)。
・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究B)「過疎地域と地方都市間の関係分析による人口減少社会モデルの生活構造論的構築」、2019～2021年度、研究分担者(研究代表者: 高野和良・九州大学)。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会、日本社会分析学会、福祉社会学会、日本地域福祉学会、日本社会病理学会、山口地域社会学会、日本村落研究学会

6. 担当授業科目

地域社会学A・2単位・1年・後期、地域社会学B・2単位・3年・後期、福祉社会学・2単位・3年・前期、社会調査の設計・2単位・2年・前期、社会福祉調査法・2単位・2年・後期、公共社会学研究・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、日本事情A・2単位・留学生・後期(分担)

7. 社会貢献活動

川崎町地域公共交通会議・副会長、田川市石炭・歴史博物館等運営協議会・委員、田川市都市計画審議会・委員、北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク活動推進事業第三者評価委員会・委員、福岡県交通対策協議会・委員、NPO法人抱樸 赤い羽根福祉基金「高校中退防止と困窮孤立する子供への居住就労生活の総合支援事業」事業検討委員会・委員、豊北地区社会福祉協議会連合会 豊北圏域実態調査・研究員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし